



JCLIFE

2020年
11月号

JCI 一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>

10月例会

10月15日(木) 一般社団法人尾道青年会議所は10月例会を尾道国際ホテルとWeb上での同時開催、初のハイブリッド形式で開催し、大変多くの方がお越しくださいました。

『リーダーに必要な思考力と判断力』

現在、新型コロナウイルスが依然として世界中で猛威を振るう中、多くの企業がさらなる成長のために“変化”という名の荒波”にもまれながら、必死に次のステップへの道を模索しています。

我々青年経済人は会社組織のリーダーとして、どのような状況下でも組織を守り、成長させていかなければなりません。

今回、福山ビジネスサポートセンターの高村先生に講師としてご講演頂き、グループワークで実例を元にケーススタディをすることで多くのヒントを持って帰る事ができる学びの多い例会となりました。

(記事：横山大二郎)



防災出張授業

この度、尾道青年会議所社会開発委員会は市民の皆様の防災意識向上にお役立ていただけるよう「ぼうさいかぞくかいきノート」を防災学習アドバイザー・コラボレーター諏訪清二先生監修のもと作成いたしました。

大人は防災や減災が大切だと理解していても、「今までに経験したことがないから自分は大丈夫」という考えから関心は低く、意識を向上させるには、様々な要因が障壁となっております。

そこで、子どもを通じて、大人の意識も変化していく契機となり、防災意識の備わった家庭が増えていくことを願い、市内小学校全学年に「ぼうさいかぞくかいきノート」を配布いたしました。

また、「ぼうさいかぞくかいきノート」の配布とあわせ、大雨から自らの身を守る方法について啓発していく授業パッケージを作成し、市内小学校において出張授業を展開しております。

10月14日因北小学校からスタートし、10月19日因島南小学校、10月27日、28日比崎小学校にて授業をさせていただきました。

教壇に立つことが初めてで、緊張もありましたが、授業後児童からもらったお礼の言葉に大変感動をいただきました。



出張授業は11月下旬まで実施いたします。

引き続き、より良い授業ができるよう取り組んで参ります！

防災教育普及活動において小さな一歩かもしれませんが、防災意識の備わった学校、地域づくりにお役立ていただければ幸いです。

(記事：社会開発委員会委員長 小川直紀)



卒業生スピーチ



谷原 康弘

こんばんは。(岡田健吾君のムービーをみていやえですわね)。腕を持つてる人は私は11年間在籍させていただきまして、まず最初に本場にお詫びしないとけないことがございます。2年目ぐらいから、ずっと私のことを理事に推していただいて、いろんな方に「理事やれ理事やれ」といろんな励ましや応援のメッセージをいただきますけれども、結局(資料を)見ていただいたらわかりませんが、理事をやることなく終えること、本当に申し訳なく思っております。

ただ、私は理事をやらなかったという面もあるんですけども、かなり濃厚な濃密なJ.C生活を送らせていただきましたので、それをちょっとずつ振り返っていただけたらと思います。

まず入会の経緯ですが、完全なバワハラです。元請けのいうこと下請けが従うというところで、勝手に入会が決まっています。あとはサインするだけというふうな話です。そのときに、幡中幹生先生が、当時は全然面識がなかったのですが、うちの会社に来られてまして「谷原君」ということで、J.Cの魅力をいつもの感じで熱く語っていただきました。

その時に、私は生まれも育ちも三原で、尾道には何のゆかりもなく、知りあいいないし、三原に住んでいるということもあるので、「なかなか夜のお付き合いというか飲み会も参加がしづらいんですけど大丈夫ですかね」という話をしました。

そうすると先生は「尾道市なめんよ」と。「そんなことあるわけないじゃないか」「飲み会なんかないよ」と。「そんなことで尾道を活性化するんじゃない」「真面目にやっている団体なんで、そこをはき違えてもらっては困る」というようなことを言ってもらって、サインをしたんですけど、皆さんわかって思いますが、大嘘ですよ。それでまあ「わかりました」ということで入会をさせていただきました。

入会してすぐに、23年ですかね、皆さんと同じように入って幹事という役割を経るんですが、小林輝久先輩の委員会に配属になりましたが、すぐ委員長から電話がありまして、「谷原君、うちの委員会はもういいよ」と。始まってるのにですよ。始まってるのに、「うちの委員会もうでなくていいから、とにかく坂本さんという人から電話があるんで、その人の指示に従ってくれ」と言われました。

まあ入会当時なので何もわからぬままですわね、その指示に従えばいいかなと思っていたら、いつか警察にきてくれと言われ、なんで警察なんだろうと思いがらいくと、坂本先輩と高橋司先輩がいて、「ミッキーを呼ぶよ」と。「責任者はいつです」と言われて紹介されるわけですよ。何も聞いていない私は、急に責任者ですか？みたいな話になって、はあ……という感じで、急遽ミッキーマウスを呼ぶということで警備のほうをお願いしました。その流れで、ずっと坂本先輩の委員会に配属はないんですけども、従事するというような感じで、まあなんとかミッキーマウスを終えることができました。

次24年に、55周年特別実行委員会、これまたミッキー呼ぶといわれまして、継続で「お前頼むよ」ということでミッキーを呼びました。初年度の経験があったので、なんとかやり遂げることができました。

続いて25年、安楽城大作委員会、夏期講習ですわね、大山に登るといってまた無茶苦茶な話で、夏期講習ってほしいは千光寺山荘などの近場でやるんですけど、他県に行くと、それも大山に登ろうということ、現地調査に何回も行って大山に登りました。

続く26年、今日はいませんですけど石森君が委員長で、ここは唯僕の休み年ではないですけど、あまり記憶がございません。多分、写生大会のような絵を描く大会をやったような気がですけど、記憶はあまりないですね。

次27年、ブロック大会実行特別委員会ということ、太田実行委員長の元、これもまた無茶苦茶な話ですけど、尾道水道に台船を浮かべてそこでブロック大会をするという話で、今度は警察ではなく海上保安庁へ行ってくれということ、海上保安庁に行きまして許可取りをしました。

翌28年ですが、中司委員長ですけど、ここで更に追い打ちをかけるようにまたミッキーを呼ぶと。三度目のミッキーですね。これは27年のときから、たぶん当時は麻生理事長だったとおもうのですが、「だれが委員長になるはわからないけど谷原君、ミッキーを呼ぶけえ頼むね」と、ミッキー委員会が決定されていきました。蓋を開けたら中司委員長だったという感じが、ミッキーをまた呼んで、三度目のミッキーということになりました。

次29年は川原獎二先輩の委員会で、これは寺子屋を初めて御調のほうにもつていくということ、計画を立てたんですが、この年は、その寺子屋の二日前に、僕マダニに噛まれました、生存確率10%です、いやこめんない「死亡率10%です」という話をものすごい高熱の中で、医者に言われまして、泣く泣く参加を諦めるということがありました。

次30年は吉田雄太君の委員会ですかね。これは災害がありました。豪雨災害があったので、ちよととんだような感じになったんですけど、この委員会も勝負委員会、もし何もなければ、商店街でキャンパスというふうな無茶苦茶な計画を立てておりまして、今のアウトドアの先駆けみたいな感じで計画をしていました。

次31年は(池田)知和君の委員会で、米フェスで餅まきをさせていただきました。

最終、今年ですけども、今年はずつくりできるだろうと、コロナで大丈夫だろう、ゆつくりさせてもらえないかなと思っていたら、花火を打ち上げるということになりまして、すぐに保安庁と警察に行ってくれということ、私人で警察と保安庁に行ってきた、最終23日前に警察に怒られるということがありました。

そういう感覚で11年過ごさせて頂いたんですが、すごく濃厚に濃密にJ.C活動をさせていただきました。ちよと前の話をすると、せつかくJ.Cに入ったんだからという風に皆さんいわれると思うんですが、成長しないと意味はないと思えますし、成長してなんだろうとおもったときに、成長するには120%ぐらいの力を出して、やつと成長だと思わすよ。ね。100%の力を出していたら、次同じ自分の力でやると成長はないと思うので、次その120%の力が普通になって、100%の力になって、やつと成長だと思わすよ。ね。

このいろんな経験をさせていただいて、僕は委員長、理事をやりませんでしたけど、二つ決めていたことがあって、理事をやらぬなら委員として責任をもった行動をしようという風におもっていました。委員として、じゃあ何が責任をもった行動なのかという、やっぱり個別に配属された委員会に出て、意見をいうことなんじゃないかなとおもっていました。

室合同がこの間あったと思うんですけど、新しい年度の委員会メンバーが発表されたときに、委員のメンバーを見て「あつ、谷原がいる。当たり前じゃ」と思われかけたんですよ。「おつ、谷原おるけえ今年は良かったぞ」と思われたくですつと過こしてしまいました。なの

で、例会の出席率は申しわけないですけど悪かったと思うんですけど、委員会の出席率と言われればたぶん良かったんじゃないかなとおもいます。それが心がけていた面でありまして。

委員会に出席して、いろんな意見を言うことによつて、年度がいろいろ違うんで早く入った人も、遅く入ったひともあると思うんですけど、幹事の人も例えば卒業予定者の人も、まんべんなく意見を言っている場だとおもうので、そこは遠慮なく言ってもらったほうがいいんじゃないかなと思えます。

委員長つてやっぱり120%、150%を出そうと背伸びしている感じがあるじゃないですか。それを支えるのが委員会メンバーだとおもいますし、その支えが、最終的に理事長を持ち上げる、担ぎ上げるということになるんだらうと思えます。

なので、その入会年度関係なく意見をいつてもらつて、からの事業だと思えます。そうすると、自分の意見がとおらない事業でも、やっぱり楽しいじゃないですか。僕はこの11年いろんな意見をだしてきましたし、いろんなことを言ってきました。ただ、全部ほんとうに楽しかったですよ。今年も不平不満も言いましたけど、最後のいろいろ大変でしたけど、あの花火が上がった、ものすごく楽しかったですよ。

だからその楽しいことを皆さんに味わってもらいたいんですし、そのためには、やっぱり意見を言っておかないと、楽しくないとおもうんですよ。ただただ事業の日に参加だけして、やるというのには、参加した価値が半減すると思えます。なので、とにかく委員会というんな意見をいつてもらつて、そこで楽しさを見出していただきたいなというのが、僕がずっと委員をやつてきて思ったことです。

参加することが大事だとかいいますが、参加するよりも何よりも、意見をいつて自分が事業にその加わるというか、委員長がその120%出そうとしていてるところを支えるということが大事だと思えます。

そして120%出そうと思つてどうしても背伸びするので、ふつとくと思わすよ。ふつとくことが、こけても許されるのがJ.Cだとおもうし、それをみんな支えるのもJ.Cだと思つています。なので、ぜひ今後いろんな立場になると思いますが、立場ごとによつたり違うと思わすし、私はずっと委員でしたけど、いろんな立場になつても、そういうことを心の中にとめておいていただけたらなとおもいます。

最後に、そんな感じで支えあつていたら、どうしても友達つてできるじゃないですか。みんなね。だから信頼

できる友達ができるのかというのは最後についてくる話なんで、そこだけ最初にしていれば、なんとなく友達が何人かできると思います。(今回)WEB会議で参加してまず加度理事長ですとか、安楽城大作次年度理事長とか、友達になつて、すごく良い関係なんですけど、心残りなのは最後二人の晴れ舞台を見届けることができないことです。卒業してしまうので、僕の立場からいうのも難ですけども、次年度加度プロック長ですか、そして安楽城大作理事長ということで、二人が精一杯ですね、200%背伸びしようとしているんで、ぜひ皆さんで支えていただきたい。これだけは本当に最後にお願ひさせていただきたいとおもいます。

簡単ではありますが、以上で、これ僕が(卒業生スピーチ)最後だということ、本当につたない卒業生がいっぱいありましたけど、いろんな卒業生スピーチを最後までお聞きいただきましてありがとうございます。以上です。ありがとうございます。



岡田 健吾

私の入会は平成24年です。改めてみると8年間在籍をした事になります、本当にあつたという間に過ぎ去っていったような8年間でした。入会は仕事で関連があつた村上忠正先輩に紹介を受け、入会しました。初年度は三谷委員長のもと、総務広報委員会に配属となりました。

定款の調査研究という所管がありましたが、三谷委員長は「だったら映画を撮る」と言いました。その時の委員会は三谷委員長と私の二人でした。私は幹事です。右も左もわからない状態で委員長という偉い方がお話しされているので「そうですよね」と答えておきました。

そこからシナリオを考えて撮影を行って編集をし、合同委員会で発表をしました。これが私の最初の映像製作となり、次の卒業例会ではオープニング映像を作りました。

三谷委員長とは一緒に住んでいるんじゃないかと錯覚するほど毎日会い、副理事長であつた片岡彰一郎先輩の励ましをいただきながら作成していました。後にも先に60時間睡もしなかつたのはあの時だけです。翌年は宮坂先輩が委員長のビジネス開発委員会

でした。私の出席が思わしくない状態でも会った時は大変暖かく迎え入れていただき今でも感謝しています。

翌年は片岡先輩をはじめとするLOM支援実行特別委員会でした。例会で一人で話すような機会もいただき緊張しましたが大変楽しくそして貴重な経験をさせていただきました。

この年は卒業例会のオープニング映像も担当させていただきました。麻生先輩の大きな書を書いてる姿を撮影して入れ込むなど、撮影から企画をして楽しく製作出来たと感じています。

翌年は森川委員長率いる会員資質向上委員会。この年は新年宴会を担当例会という事もあり、例会のオープニング映像を担当しました。森川委員長の人を盛り上げる力は本当に尊敬しています。

そして吉田雄太委員長率いる未来ビジョン委員会。この年は豪雨災害が起きた中、色々と模索を繰り返していましたが過去をじっくり掘り下げるなど、今までのないアイデアで例会を開催できたと思います。例会ギリギリの日程まで私の会社に集まって楽しく構築できたのは何よりの思い出になっています。

去年は活気溢れる組織作り推進委員会。池田知和委員長です。とにかく全員でやる。何かと人数がかつていくという策で挑んだ委員会だったような気がします。知和委員長とも私の会社まで深夜まで連日色々作業をしました。早朝岡山まで並んで買ったバナナが本当に必要だったのか今でも疑問ですが楽しい思い出です。

そして今年には副委員長として総務広報委員会です。山本圭介委員長の下、活動しています。総務という事も、委員会の垣根を越えて活動する事が多く、たくさんの方々と一緒に活動出来る非常に楽しい年になっています。

私は比較的好き勝手に活動してきたような気がしますが、誰から指示を受けて何かをするというわけではなく、困っている委員長をどうやって助けられるかという事を考える事が多く、今思えば事業や例会が終了した後に委員長をはじめとするメンバーが楽しかったよかったですと言え事を自然と求めていたように思います。

委員長になる方やメンバーの方に対してそのような想いが芽生えるのはその方々全員に何か魅力があるからです。

青年会議所メンバーになる方で何も魅力のない人は1人もいません。それぞれが何かしらの能力に溢れ、活躍できる場を持っているはずですよ。

新入会員の皆様へ
それぞれが活躍できる場や居場所を早く見つける近道は事業例会委員会に参加する事です。苦手な事、得意な事、自分の知らない事や自分の一面、色々な場面に出くわしながら仲間が出来、居心地がよくなつてくるのだと思います。

お世話になった先輩方
人付き合いが不得手だった私にいつも優しくお声がけしていただけた人ばかりでした。そして色々な魅力に溢れている方ばかりで、もっと早く飛び込めばよかったと今でも思っています。改めて御礼を申し上げます。

現役会員の皆様へ
私は最終年に理事になりました。新任であるにもかかわらず今年の副委員長の皆さんをはじめ、温かく私を迎え入れてくれた事、本当に感謝しています。理事は大変だけど楽しい、やつてよかったという話をよく耳にしますが本当です。色々な事があるので一言で言い表そうとするとならんだと今になって思います。

これからの尾道青年会議所が皆さんの魅力溢れる人の力で発展していく事を願っています。大変お世話になりました。



鍋島 巧

みなさんこんにちは、総務大好き鍋島です。自分は最短コースの5年で卒業ということなので、さつと終わろうと思います。

まず、入会の経緯ですが、どういう流れでそうなったのかあまり覚えていなくて、商店街の喫茶店で案楽城さんに会ったというところからしか覚えていません。

それで、JCについてずっと説明されていたんですけど、正直よく分からなくてですね、ただ、まあ、知り合が増えそうだったということだけは分かりました。そうこうしているうちに、当時の拡大の委員長の武田先輩がこられまして、挨拶もそこそこに案楽城さん

がこういったんです。

「この人、お寺の人じゃやねえ大丈夫よ」と。

今考えると、何がどう大丈夫なのか全然意味わかんないんですけど、当時はそのことには、「そんなんじゃ」となぜか納得してしまつて仮入会申込書にサインしました。

喫茶店に連れ込まれて、高いツボを買わされるときつてこんな感じなんだろなと思います。

そして、幹事の年ですが、村上成司先輩の委員会でした。

まあ、最初の年で分からない事はばかりなので、委員会に出れるときは出て様子見をした感じの2年でした。

一番印象に残っていることは、確か、1回目か2回目の委員会の時に、自分は遅れて出席できれば、という感じだったので、結局委員会には間に合わず、「ちょっとこれからアフターだから来たら」と言われました。

そういうわかれたので、じゃあ、ということで、アフターの場所へ行つたら、なんと委員長しかいませんでした。なんじゃこりや、とひどくびびくりしたのを覚えていました。

二年目は川原奨二先輩の委員会でした。

ここでお願ひがあります。

この年の夏期講習、確か、自分は遅れて行つたと思うのですが、その時に居酒屋の青春で、女装コンテストみたいのがあつて、遅れて行つたときに、訳も分からず出るという話になりました。

それで、仕方なく出たのですが、思ひのほか好評でございまして、優秀賞?ということになりました。お色直しもさせられました。これも意味わかりませんけど、なんですか?お色直して。

その時の写真を皆さん、今の各委員会に一人くらいは持っているかと思いますが、そろそろスマホなどから消していただきたいなと思います。何卒よろしくお願ひします。

それからあと、表彰式で当時の太田理事長の唇を奪うという暴挙に出してしまいました。その結果、理事選で選出されてしまうわけですが、大変申し訳ございませんでした。

次の年は委員長の年ではやはり大変でした。森川副委員長には大変お世話になりましたが、今回の委員会では出席できないと言われまして、ほんとに、肝を冷やしました。

委員長になって初めての委員会でも何もわからないのに、いないなんてとても耐えられない。そういうことで、LINEのグループ通話で委員会に参加してもらいました。

今年はおオンラインでみなさん委員会するようになりますが、自分は時代を先取りしていたようです。

総務と言えは、卒業例会がやはり一番大変でした。三谷さん、事務局に「晩閉しだめて下さいません」実は、この時次年度副委員長だったんですけど、その委員会が新年会担当で、

卒業例会から新年会と二月連続担当例会というまあまあひどい仕打ちをうけてまして…。

誰が決めたのか知らないですが、「馬鹿じゃないん？」と心の中で思っていました。

そして、副委員長の年もまた大変でして…。

OBの方に「副委員長は委員長やったあとの休憩じゃね」と言われたりしたのですが、とんでもなかったです。

大変な原因ははっきりしていて、委員長と信頼関係が築けなかったことです。

今でも時々、こうじゃなくてああしてあげていただろうかと思ったりすることがあります。正直、委員長の時より違う学びが多かったと思います。

そして、今年も3回目の総務…。

隔年ごとに総務はさすがに、飽きてきます(笑)

ただ、新型コロナで活動は半減、その代わりに、委員会メンバーのほぼ全員とドラクエワークをずっとやっています。やってないのは、岡田副委員長くらいでしょうか。

かなりひいてますよね…。

よくみんまで、冒険してます(笑)

最後に、理事とは何ぞやということを書いて終わりたいと思いますが、自分の中では、理事とは思って作りだしている結論に達しました。

小中高とすきで、大学、就職してしばらくは結構みんな色々な思い出があると思いますが、30代になったら、自分の子供とか家族との思いでとかならあると思うんですが、自分中心の思い出でそうそうないと思うんです。

委員長とか副委員長とかやって、うまくいくこともたまめなことあるだろうし、ためになったり意味なかったり色々あると思うんですが、どちらにしても、大きな思い出になると思うんです。

なので、みなさん機会があれば、気軽な感じで「理事になって思い出を作りますよ」5年間ありがとございます。

仮入会研修

尾道青年会議所は1957年の設立以来63年間、「明るい豊かな社会」の実現のために、時代と共にまちづくり、ひとづくりを中心に地域に根ざした様々な運動を展開してきました。

令和という新しい時代が幕を開け、急速に変化する現代社会のなかで、若いエネルギーと新しい発想で失敗を恐れず挑戦する若く新たな人材が必要とされています。

10月13日ベイトウン尾道にて仮入会員研修が行われました。

『新たな力』

2020年度仮入会員候補者の皆様が円滑な本入会を目指して、ルールやマナー、作法を学んで頂きました。そして、本年度は尾道青年会議所を理解して頂きたく2019年の活動をモデルケースとして、理事長所信から事業構築と委員会運営。その中の幹事の役割や、その重要性をお話し頂き、候補者の組織の中での幹事について理解して頂くことができました。

本入会へ至る最後の研修事業という事で候補者全員が真剣な眼差しで研修をしていただきました。

(記事：会員拡大委員会委員長 高橋洋樹)



どうせなら 編集後記
わらってしまえ
闘病記 リハビリ編

HP 

facebook 

総務広報委員会の島田です。一体こんな記事が誰が楽しんでくれるのかと委員長にクレームを言いたいところですが、まさかの続編依頼です…。もはや断る気にもなれませんので、自己満全開で楽しく執筆させていただきます。

さてさて、リハビリの開始です。入院中にリハビリは始まりました。若い女性の先生が、肩から指までマッサージをしてくれます。若干の痛みはありますが、気持ち良いものです。無理には動かさず、丁寧にほぐしてくれます。世間話をしながら「これなら毎日でも耐えられるわ～。楽勝かも～」なんて思えたのも、2日目までです。骨折と手術の影響もあり、当時私の肘は精一杯で90度までしか曲がりませんでした。ちなみにリハビリのゴールは、左手で左肩を触れることが条件です。可動域を少しずつ広げていきます。3日目からは、痛みとの闘いです。世間話なんてとんでもない。する気も起ころなければ、聞く気もありません。あの優しかった先生はどこへ…。「(先生)はい、もう少し曲げますよ!!」もはや別人…。(涙)左手で左肩を触る…。ラジオ体操でしか使わない行為です。その意味と必要性を模索しておりました。

厳しいリハビリも一週間程進みました。リハビリを終えると家にはかわいい娘が二人待っています。姉は四年生。私の気持ちに同調し、色々と言ってくれます。「かわいそう」「大丈夫?」「荷物持とうか?」等々、なんて優しい娘だろう…。親の顔が見てみたい。感動したのもつかの間、4歳の妹が、私の痛々しい両手の包帯を見て、「包帯まきまき～、包帯まきまき～♪」と嬉しそうに歌っています。(どうやら童謡「糸まきまき」の替え歌らしい)親の顔が見てみたい…。(涙)そんな妹に「元気になったら、一緒にお風呂入りたい」と言われ、リハビリの意味を1つ見出したのでした。

手術後の痛みは尋常ではありません。ふいに肘をぶつけようもんなら、雷のような衝撃が走ります。家では、4歳の娘が元気に私の周りを歩き回ります。しかもこの娘、私が普通に立っていると、石頭がちょうど肘の位置です。ミラクルフィットです。2回頭突きをかまされました。ドラクエで言いますと、「モンスターはこちらに気づいていない」からの「会心の一撃」です。悶絶モンです…。そんな経験もあり当時の私は、後ろに姉がいるのか妹がいるのか、気配でわかりました。フリーザに「てめえらはスカウターにたよりすぎなんだよ」って言ってやれます。怪我さえ治れば何の役にも立たない能力ですが、小さな巨人との戦いには欠かせない能力です。

もうすぐ厳しいリハビリも終わりです。完結編?でお会いしましょう。

(記事：島田昌広)